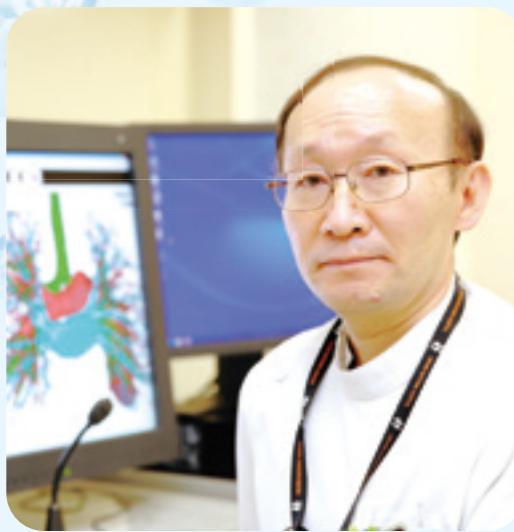


## 当院呼吸器外科よりごあいさつ



外科総合診療部長 八柳 英治

皆様、こんにちは。呼吸器外科の八柳です。今でも時々当院のことを「療養所」と呼ぶ年配の方に遭遇します。この名称からも分かる様に、当院呼吸器外科の歴史は結核に対する外科治療から始まったと言えます。その後、肺癌を含め呼吸器疾患全般に対し専門性の高い外科治療を提供する帯広・十勝地区における呼吸器外科の拠点病院としての役割を果たしてまいりました。この間、我々の治療対象となる疾患の中心は結核から肺癌へと移り変わってきました。その肺癌も、社会の高齢化と高い喫煙率の影響で近年著しく増加し、しかも高齢化してきています(今や80才を越える手術症例も珍しくありません)。当然、何らかの基礎疾患を持つ症例も増え、以前なら適応とならなかった方でも手術の対象となっていました。

この様に一筋縄では行かない症例が増えてきたことに加え、肺癌の治療自体も進歩し、以前は画一的に行われていた手術が、個々の症例に合わせ異なる術式が選択されるようになってきました。手術

自体も、体に優しい手術である反面、医師にとっては高度の修練が求められる内視鏡手術(胸腔鏡手術)が主流になっています。従って、呼吸器外科医には益々豊富な知識と高度な技術が要求される時代になってきました。つまり片手間ではとても呼吸器外科を出来ない、あるいは行ってはいけない時代になったと言えます。その点、当科は専門医・指導医の資格を有する八柳を中心とする2名の呼吸器外科医が専徳で診療を行う体制を取っており、専門性の高い最先端の医療を提供していると自負しております。これからも、皆様の期待を裏切らない様に新しい知識、技術を取り入れ高度な医療、また、心の通った人に優しい医療を提供できる様努力して行きたいと思っています。



## こころみ Q&A

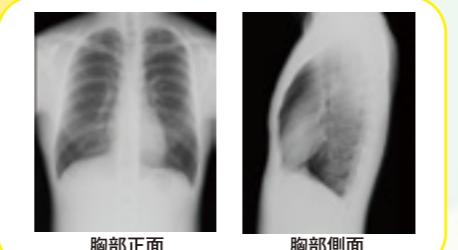
### Q. 胸のレントゲン検査ではどれくらい被ばくするのですか?

**A.** 同じ胸のレントゲン検査であっても、患者様の体格などによって被ばく線量には個人差がありますが、一般的には胸のレントゲン検査による一回の被ばく線量は0.06~0.15mSvです。

※注/mSv(ミリシーベルト)は放射線量の単位です。

私たちが普段生活していく一年間に浴びる放射線量というのが、約2.1mSvと言われています。胸のレントゲン検査による一回の被ばく線量が0.06~0.15mSvですので、一年間に浴びる放射線量と比較しても非常に少ない線量だと言えます。

レントゲン検査を受けて被ばくするデメリットよりも、きちんと検査を受けて病気を見つけることの方が、はるかにメリットが大きいと言えますので、安心して検査を受けて頂きたいと考えています。



## 術中迅速病理診断のおはなし 通称「ゲフリール」について

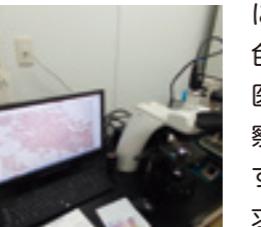
検査室だより <臨床検査技師長 山崎 恒詩>

当院の呼吸器外科では手術中に組織の一部を採取して病理標本を作成し遠隔地(なんと旭川医大!)の病理医に判断を仰ぎその後の手術の方針を決めるという離れ業(!)を取り入れています。「…うーん…テレパソでフラジャ○ル♪」

術中迅速病理診断(じゅつしうじゆうじんそくびょうりしんだん)とは、外科手術や内視鏡手術時に行われる病理診断です。手術中の限られた時間内に病変部の性質、たとえば腫瘍が良性か悪性かの判断や、転移や病変部の取り残しがないかなどを調べます。手術中に診断したい病変部分をメスなどで切り取って採取し迅速病理標本を作製します。採取された材料を液体窒素で凍結し、組織凍結ミクロトームで数μmの厚さに膜状



手術中に切り出した組織



染色標本の顕微鏡画像を旭川の病理医に転送



### ●患者等のメリット

手術中の病理診断結果に基づいて、手術範囲の決定や、手術方法もより適切な選択が期待できます。肺に病変があるとき、迅速病理診断の結果、悪性であると判明した時点で肺切除手術などを行い、良性であれば大掛かりな手術を行わなくてすむため、術中に良性悪性を判断可能となれば手術回数も減少し、術中迅速病理診断は患者負担や医療費の低減に寄与します。

## 季節で流行する感染症のおはなし 「インフルエンザ」について

感染対策室だより <感染対策室 掛水 智子>

インフルエンザは12月から3月下旬に流行するインフルエンザウイルスによる感染症です。38℃以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が急速に現れるのが特徴です。併せて、普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻水、咳などの症状も見られます。お子様では、まれに急性脳症を、高齢者の方や免疫の低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。

### ★「うつらないために」

- ・インフルエンザワクチンを接種する。
- ・外出後に手洗いをする。
- ・適度な湿度を保つ。
- ・十分な休養とバランスのとれた食事を取る。
- ・人混みへの外出をさける。



### ★「うつさないために」

- ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。
- ・咳やくしゃみがでる時はマスクをする。
- ・とっさの時はティッシュや腕の内側で口と鼻を覆いしぶきを飛ばさないこと。
- ・鼻水や痰を含んだティッシュはすぐにごみ箱に捨て、手をすぐに洗うこと。

